

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171300017
法人名	社会福祉法人 清水福祉会
事業所名	グループホーム たんぽぽ
訪問調査日	平成19年11月29日
評価確定日	平成20年1月29日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171300017
法人名	社会福祉法人 清水福祉会
事業所名	グループホーム たんぽぽ
所在地	佐賀県小城市小城町821-4 (電話) 0952-72-3408

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月29日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤3人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 6階建の1階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,400 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.7 歳	最低	82 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひらまつ病院	そがデンタルクリニック
---------	--------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一の敷地内には、病院、老人保健施設、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ケアハウスが併設されており、そのケアハウスの一階に、グループホームたんぽぽがある。玄関を入ると「私らしく生きる」という理念が明示されている。各居室には、なじみのものが置かれ、一人ひとりの今までの生活を大切にしている様子が窺える。グループホーム独自の理念を全職員で考え、理念に沿ったケアが重視され、職員の言葉づかいや物腰は穏やかでゆったりと利用者に接し、本人や家族の思いを大切にすることが窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を踏まえ、全職員がサービスの質の向上を目指して取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を、原点に戻り仕事を見直すよい機会として捉え、質の向上に前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに運営推進会議が開催され、メンバーの積極的な参加がある。ホームの行事案内や行事報告を行い、参加者メンバー一人ひとりから意見を出してもらい、出された意見をサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族から、意見・苦情・不安などを気軽に話してもらえるような雰囲気づくりをこころがけ、出された意見・苦情は、ミーティングやその都度全職員で話し合い運営に反映させている。利用者の状態報告などの連携を通じ、職員と家族の良好な関係づくりに努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事等には、利用者とともに積極的に参加し、地域ボランティアや地区の中学校のボランティア活動・研修を受け入れるなど、共に暮らす地域の一員として交流できるよう努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私らしく生きる」というホーム独自の理念を全職員で作り上げ、優しさと思いやりを持って、利用者がその人らしく生活できるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会議やミーティングで、支援のあり方について全職員で話し合い、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神社のお祭りや地域の行事等に利用者も参加したり、地域ボランティアや、地区の中学生のボランティア活動・研修を受け入れるなどの交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアの振り返りや見直しのよい機会として自己評価に全職員で取り組んでいる。外部評価の結果についても、サービスの質の向上に活かしていこうとする姿勢が窺える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、メンバーの積極的な参加の中で、2ヶ月毎に開催されている。評価やホームの行事報告、各種検討議題について話し合い、参加メンバー一人ひとりに意見をもらいサービスの向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や市社会福祉協議会と連携し、ボランティア研修の場として、事業所を活用してもらうなど積極的に市との関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や定期的に発行している「たんぼぼ通信」、年2回の家族連絡会などで、利用者の暮らしぶりや健康状態などを個々に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時や家族連絡会等で意見や苦情など気軽に話してもらえるような雰囲気づくりに留意している。また出された意見はミーティングやその都度全職員で話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員によるケアを受けられるよう努め、併設の施設へ転属した場合であっても引き継ぎの期間を十分にとるなど、利用者へのダメージを最小限にする配慮がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が法人内外の研修に参加できる機会を確保し、研修受講後は研修内容を伝達し、研修記録も全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他の事業所との交流の機会を確保し、グループホーム相互間の情報を得て、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には管理者が自宅訪問をしたり、家族や本人にホームの見学や一日利用体験をしてもらうなど、徐々に馴染みの関係を作り、納得したサービス利用になるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、また支援する・支援される関係ではなく、ともに暮らす仲間として、穏やかに生活できることを重視した、声かけや場面づくりの配慮がある。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者一人ひとりに声をかけ、「私らしく生きる」ための希望や意向の把握に努め、本人本位の支援が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や希望などを聞き、話し合いながら介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明して同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとと定期的見直し・評価の他、個々の状態の変化に応じ、随時、全職員で見直しを行い、家族とも相談し、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の都合・要望を踏まえた、医療機関受診、利用者の家庭周辺のドライブを兼ねた「ふるさとめぐり」、買い物、併設施設の文化祭、餅つき等に参加し、利用者に張りのある柔軟な生活を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関の受診を支援し、基本的に家族同行の受診であるが、家族の都合で不可能な場合は、職員が同行し、あとで受診結果を家族に報告している。かかりつけ医と事業所は、24時間体制で密に連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から、重度化した場合や終末期の医療のあり方について本人や家族と話し合いが行われている。医療機関とは協力体制をとり、全職員が方針を共有している。		
せ					
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のかかわりの中で、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけないよう、誘導の声かけや、さりげない言葉かけに配慮がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時をどう過ごしたいか、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、ゆったりとした関わりで、個性のある支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの希望を取り入れながら、献立表を作成している。調理・盛り付け・後片付けなども職員とともに行い、職員と利用者が同じテーブルを囲み、食事を楽しむことが出来る配慮がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、楽しく入浴できるよう支援している。気の合った仲間同士が2~3人で共に入浴され、温泉気分を楽しまれることもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごとを持って、張りのある生活が出来るよう畑づくり、食事作り、洗濯物たたみ・掃除など生活暦を生かした一人ひとりの役割がある。外でのお茶会・外食・弁当持参で、花見・季節ごとの遠出など入居者に相談しながら、豊かな暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、日向ぼっこ・散歩・買い物など一人ひとりの気分や希望に応じて、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠されていない。見守りを徹底することにより、安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に地域の消防団と連携し、利用者とともに非難訓練を行っている。避難方法、場所、連絡経路を全職員が周知し混乱が生じないようにしている。	○	災害に備えた備品等の準備も進められており、火災や地震、水害等の発生時に備えた食料や飲料水、寒さをしのげるような物品等の充実が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が交代制で1週間の献立表を作成しているが、毎回法人の管理栄養士に内容やカロリーなどについて、専門的なアドバイスを受けている。一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量も大まかな把握がなされている。ホールには、緑茶や麦茶が用意され、いつでも自由に飲むことが出来るよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には腰掛けて下足と履き替えが出来るスペースがあり、利用者の日向ぼっこを楽しむ場所ともなっている。ホールのソファは、ゆったりと寛げる場となり、季節の花を生けたり、壁掛けにも季節感を採り入れるなど、落ち着いて居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や生活用品や仏壇が持込まれたり、写真が飾られるなど、その人らしい部屋づくりと、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		